

サマーセミナー2007報告

梅田 和昇¹⁾, 中村 明生²⁾, 村松 正吾³⁾

1) 中央大学 2) 東京電機大学 3) 新潟大学

2007年度のサマーセミナーは、8月28日～29日の2日間、静岡県伊豆の国市の伊豆長岡温泉 えふでの宿・小松家八の坊において開催された。学生の発表は若葉研究会28件、研究討論会1件の合計29件であり、それに加えてチュートリアルセッションでは講師の先生2名に特別講演をお願いした。参加者数は企業7名、大学教員17名、学生38名の合計62名であった。以下、セミナーの概要について述べる。

1. はじめに

1992年のスタート以来、第16回目となる今回のサマーセミナーは、伊豆長岡温泉 えふでの宿・小松家八の坊において、8月28日～29日の2日間にわたり合宿形式で開催された。映像情報メディア学会メディア工学研究会との共催で開催されたサマーセミナーとしては、2004年以来、今回で4回目となる。

サマーセミナーの主目的は、最先端の研究者を招いて勉強すること、これからの技術開発を担う学生や企業の若手研究者に研究発表と研究指導者（企業研究者や大学教員）との交流の場を与えること、両学会の研究室や研究者同士の交流を図ること、である。

2. 開催準備と実施形態

2006年11月から企画を開始した。共催となってからは両組織が交代で主担当になっており、今回は画像応用技術専門委員会が中心となった。以下に示す合同企画委員会を設置し、梅田和昇企画委員長のもと、中村明生幹事（画像応用技術専門委員会）、村松正吾幹事（メディア工学研究会）が中心となって準備を行った。

サマーセミナー2007 合同企画委員会（敬称略）

画像応用技術専門委員会側

- ・ 梅田 和昇（中央大学、企画委員長）
- ・ 中村 明生（東京電機大学、幹事）
- ・ 渋谷 久恵（日立製作所）
- ・ 中野 宏毅（日本IBM）
- ・ 菅野 純一（ファースト）
- ・ 棚澤 信（旭硝子）
- ・ 藤原 孝幸（中京大学）

メディア工学研究会側

- ・ 村松 正吾（新潟大学、幹事）
- ・ 村上 和人（愛知県立大学）
- ・ 青木 義満（芝浦工業大学）
- ・ 佐藤 美恵（宇都宮大学、委員）

優秀な若葉研究会での発表者に贈られる優秀発

表賞については、11名で構成される優秀発表賞審査委員会を設置して審査を行った。例年と同様、審査委員会のメンバー全員がすべての発表を聴講することで公正かつ平等な審査を行った。

優秀発表賞審査委員会（敬称略）

代表会委員

- ・ 梅田 和昇（中央大学、企画委員長）
- ・ 中村 明生（東京電機大学、幹事。採点には加わらず）
- ・ 金子 俊一（北海道大学、画像応用技術専門委員会委員長）
- ・ 上倉 一人（NTT、メディア工学研究会委員長）
- ・ 吉田 俊之（福井大学、メディア工学研究会副委員長）

審査委員（50音順）

- ・ 貴家 仁志（首都大学東京）
- ・ 棚澤 信（旭硝子）
- ・ 輿水 大和（中京大学）
- ・ 角田 興俊（東京電機大学）
- ・ 外村 佳伸（NTT）
- ・ 村上 和人（愛知県立大学）

3. サマーセミナー報告

3.1 参加者数

参加者数は、企業7名、大学教員17名、学生38名の合計62名（男性57名、女性5名）であった。

3.2 チュートリアルセッション

今年度は「画像応用の新たなフロンティア」というテーマのもと、2名の講師の方に特別講演をお願いした。

初日には、大和淳司博士（NTT コミュニケーション科学基礎研究所）に「人と機械のインタラクションにおける画像技術」という題目で、顔画像追跡の手法ならびにその応用としての対話シーンの解析などをご講演頂いた。手法が大変安定かつ高速に動いており、また対話解析への応用が大変興味深い講演であった。

